

札幌市下水道事業中期経営プラン2020進行管理報告書（平成29年度決算）概要版

総括

プラン2020の2年目である平成29年度は、管路・処理施設の維持管理及び再構築、災害対策の推進など、予定した事業を着実に実施することにより「安全で安心な市民生活の維持」「環境に与える負荷の低減」に努めました。

財政面においては、下水道使用料収入の微増や、維持管理費と企業債の支払利息の減少により、単年度の資金収支は黒字となり、平成29年度末の累積資金残高は当初見込みと比較して好転する結果となりました。

今後も効率的な事業執行に努め、計画的・安定的に下水道事業を継続していきます。

主要施策の展開

【基本目標Ⅰ】安全で安心な市民生活を維持します

【施策目標1】下水道機能の維持向上

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	H31	H32
下水道施設の維持管理	①下水道本管の簡易調査延長 (H28-32累計値)	km	1,430	2,740	4,010	5,430	6,840
			1,440	2,791	—	—	—
	②下水道本管の詳細調査延長 (H28-32累計値)	km	212	424	636	848	1,060
			223	448	—	—	—
下水道施設の再構築	③取付管の詳細調査箇所数 (H28-32累計値)	か所	4,000	8,250	12,750	17,500	22,600
			2,689	7,351	—	—	—
	④処理施設の設備修繕箇所数 (H28-32累計値)	か所	180	360	550	750	950
			187	394	—	—	—
	⑤管路の改築延長 (H28-32累計値)	km	14	33	57	85	119
			10	26	—	—	—
	⑥処理施設の改築施設数 (H28-32累計値)	か所	7	13	21	22	23
			8	15	—	—	—

①下水道本管の簡易調査（5年間で6,840km）

施設の機能維持のための目視による点検調査
目標の2,740kmを上回る2,791kmの調査を実施

②下水道本管の詳細調査（5年間で1,060km）

修繕や改築の必要性を総合的に判断するためのテレビカメラによる詳細調査
目標の424kmを上回る448kmの調査を実施

③取付管の詳細調査（5年間で22,600か所）

異常発生率の高いコンクリート製取付管の詳細調査
目標の8,250か所に対し7,351か所の調査を実施

④処理施設の設備修繕（5年間で950か所）

水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の修繕
目標の360か所を上回る394か所の修繕を実施

⑤管路の改築（5年間で119km）

老朽管路の改築や軟弱地盤地区における管路の不等沈下などに対応するための改築
目標の33kmに対し26kmの改築を実施

⑥処理施設の改築（5年間で23か所）

水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の改築
目標の13か所を上回る15か所の改築を実施

【施策目標2】災害に強い下水道の実現

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	H31	H32
下水道施設の災害対策	①管路の耐震化延長 (H28-32累計値)	km	0.3	0.6	0.9	1.1	1.3
			0.3	0.7	—	—	—
	②水再生プラザ、ポンプ場の耐震化 (H28-32累計値)	か所	0	1	3	3	4
			0	2	—	—	—
	③雨水拡充管の整備延長 (H27：197.7km) ※()は単年度値	km	198.7 (1.0)	199.6 (0.9)	201.2 (1.6)	202.5 (1.3)	204.3 (1.8)
			198.3 (0.6)	199.7 (1.4)	—	—	—
	④圧送管バックアップシステム整備率 (H27：84%) ※()は単年度値	%	93(9)	97(4)	100(3)	100(0)	100(0)
			88(4)	93(5)	—	—	—

①管路の耐震化（5年間で1.3km）

緊急輸送道路下などにある管路の耐震化について、目標の0.6kmを上回る0.7kmを実施

②水再生プラザ、ポンプ場の耐震化（5年間で4か所）

目標の1か所を上回る2か所の耐震化を実施

③雨水拡充管の整備（平成32年度までに204.3km）

目標の199.6kmを上回る199.7kmの整備

④圧送管バックアップシステム（平成32年度までに100%）

圧力状態の管路について破損した場合でも送水が補えるよう複数のルートを整備
目標の97%に対し93%の整備率

【基本目標Ⅱ】環境に与える負荷の低減に努めます

【施策目標3】清らかな水環境の保全と創出

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	H31	H32
下水道整備と水質改善	①合流式下水道対策率 (H27：70%) ※累計値	%	70	70	70	70	70
			70	70	—	—	—
	②目標放流水質達成率 ※単年度値	%	100	100	100	100	100
			100	90	—	—	—

①合流式下水道の改善対策を完了した区域の割合

平成32年度は70%、手稲水再生プラザの整備完了後の平成33年度には100%となる見込み

②年度ごとに設定する各水再生プラザの目標放流水質達成状況

毎年度100%という目標に対し、90%の達成率

【施策目標4】循環型社会への貢献

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	H31	H32
下水道エネルギー・資源の有効利用	下水道エネルギーを活用した設備の導入箇所数 (H28-32累計値)	か所	0	1	1	3	4
			0	0	—	—	—

下水道の持つ熱エネルギーを活用した設備を5年間で4か所導入する見込み

健全で安定した経営への取組

【基本目標Ⅲ】健全で持続可能な経営を目指します

【施策目標5】経営基盤の強化

【財務体質の強化】

◆施設の延命化とトータルコストの縮減

○計画的な調査、修繕による施設の延命化を図り、将来的なトータルコストの縮減に努めました。

◆民間委託の推進（民間活力の利用の推進）

○設計、工事監理の民間委託を継続して実施しました。
○札幌市下水道資源公社への水再生プラザの水再生プラザの見学会の委託に向けた検討や、さらなる民間活力の活用方法の検討を行いました。

◆財源確保の取組

○社会資本整備総合交付金等の国庫交付金を積極的に活用し建設事業を実施しました。

【組織力の向上】

◆技術・知識を高める機会の充実

○新規採用職員、転入職員を対象とした下水道基礎研修、水再生プラザ見学会の実施
○下水道実務発表会の実施による各職場の取組事例の共有
○イントラネットを活用した技術情報の配信、共有 など

◆技術力の向上

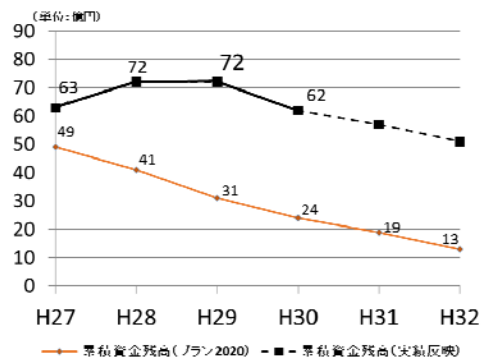
○他の自治体との技術開発に関する会議に参加し、知識の習得や向上に努めました。
○下水処理の高度化や都市水環境の保全を目的とした大学への研究委託を通じ、専門性の高い技術や知識の習得に努めました。

◆危機管理対応能力の強化

○本市全体の災害対策本部訓練に加えて、下水道河川局でも災害対策訓練を実施し、災害対応能力の向上を図りました。

【資金残高の見通しについて】

プランでの見込みよりも、下水道使用料収入が1億円増収となったことや維持管理費が12億円減少したことなどから、平成29年度の資金収支はプラスとなり、累積資金残高は、プランの見込みと比較して40億円好転し、約72億円となりました。



累積資金残高の推移

下水道サービスの向上

「情報提供」による市民理解の促進

◆次世代の担い手となる子どもたちへの環境教育の充実

- 新たなパンフレットを用いた小学校への出前授業
- ミニさっぽろへのブース出展
- 創成川水再生プラザの団体見学

◆下水道科学館による取組

- 下水道科学館のリニューアル
- 季節ごとのイベント実施による継続的な来館者確保のための取組
- 多くの方が楽しめるイベント実施
(9月9日・10日、下水道科学館フェスタ)

◆その他の広報活動

- 下水道事業パネル展開催 (9月2日・3日)
- 下水道の魅力を見える写真の募集とカレンダー配布 (各区役所)



小学校への出前授業



下水道科学館フェスタ①



下水道科学館フェスタ②



下水道事業パネル展

「市民参加」によるニーズの把握

◆下水道モニター制度の充実

- 事業説明や施設見学、アンケート調査に加えてワークショップを実施

◆出前講座制度の活用

- 分かりやすい情報提供や対話によるニーズの把握を目的として、雨に強いまちづくりをテーマに実施



下水道モニター①



出前講座



下水道モニター②